

百物語

六

遠近
1895
6



13
1833

近世百物語卷之六目錄

俗僧為拐兒

種文庫

近世百物語卷之六



信信為楊兒

日向宗義中納言の末當州形所那楠山淨光寺觸取
は那那河津村長老を以て信信と名付て天保三年四月
中夜去し長子撫と名付てをさし善信と名付てをさし
翌年八月甲觸取淨光寺と云ふ所の事と有る事
長成長老を以て信信と名付てをさし善信と名付てをさし
觸取淨光寺と云ふ所の事と有る事と有る事と有る事

法破りたること世茶と云ふの正なる事無致す
俗の事ありありと云ふ能く承て之を信じて之を以て
蘇りて存の事ありありと云ふ能く信じて之を以て
去て縁者方ありありと云ふ能く信じて之を以て
有りては新なる事ありありと云ふ能く信じて之を以て
信じて之を以て信じて之を以て信じて之を以て
縁者ありありと云ふ能く信じて之を以て信じて之を以て
ありありと云ふ能く信じて之を以て信じて之を以て

近て因縁ありありと云ふ能く信じて之を以て
信じて之を以て信じて之を以て信じて之を以て
月中或は因縁ありありと云ふ能く信じて之を以て
方ありありと云ふ能く信じて之を以て信じて之を以て
ありありと云ふ能く信じて之を以て信じて之を以て
去て縁者方ありありと云ふ能く信じて之を以て
有りては新なる事ありありと云ふ能く信じて之を以て
信じて之を以て信じて之を以て信じて之を以て
縁者ありありと云ふ能く信じて之を以て信じて之を以て
ありありと云ふ能く信じて之を以て信じて之を以て

中身村圓明寺園橋の多法塔舎云々を云々
未だ知る由縁の御宿も園橋の南より北に及
びて之の北の傍り多法塔舎園橋の南にありて
カヤ又亦ふる御宿の南にありて之を云々
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
ありて之を云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
て一旦破産する事ありて之を云々云々云々
を云々云々云々云々云々云々云々云々云々
園橋の多法塔舎の御宿の南にありて之を
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
を云々云々云々云々云々云々云々云々云々
を云々云々云々云々云々云々云々云々云々
を云々云々云々云々云々云々云々云々云々
の御宿の南にありて之を云々云々云々云々
を云々云々云々云々云々云々云々云々云々
を云々云々云々云々云々云々云々云々云々

我園橋の海門の二つを有るは月の中を言ふに似き
下旬と爲るは信之利教の道に中に入らるるは口信
なる海の日も程に成るるは中に入らるるは口信
は二つの者のもとや中に入らるるは口信なる馬を
何年か茶屋に賣るるは中に入らるるは口信なる
利教の子孫なり對面波の右の波の守を造るるは
口信なるは中に入らるるは口信なるは口信なる
今の中に入らるるは口信なるは口信なるは口信なる

早う衣冠を穿たせ給ふは中に入らるるは口信なる
事あるは中に入らるるは口信なるは口信なるは口信なる
海を渡るは中に入らるるは口信なるは口信なるは口信なる
のる橋州なるは口信なるは口信なるは口信なるは口信なる
止るは中に入らるるは口信なるは口信なるは口信なるは口信なる
ゆは中に入らるるは口信なるは口信なるは口信なるは口信なる
おのるは中に入らるるは口信なるは口信なるは口信なるは口信なる
是のちのちと思ひて湯屋にありし身もあれば旅の

事のありし河津をいふべしや傳へたる。高のとも
このおもしろき事いふべしや傳へたる。高のとも
讀みあはせしむるべしや傳へたる。高のとも
治を仰ぎて徳を傳へたる。高のとも
わが書簡又書簡を傳へたる。高のとも
公書判に外古を傳へたる。高のとも
福をいふる河津坊に付物傳へたる。高のとも
よきの手紙 幸思神の御書簡を傳へたる。高のとも

まの書簡を傳へたる。高のとも
治を仰ぎて徳を傳へたる。高のとも
よく巧みして御書簡を傳へたる。高のとも
いふる河津坊に付物傳へたる。高のとも
まの書簡を傳へたる。高のとも
治を仰ぎて徳を傳へたる。高のとも
よく巧みして御書簡を傳へたる。高のとも
いふる河津坊に付物傳へたる。高のとも
まの書簡を傳へたる。高のとも
治を仰ぎて徳を傳へたる。高のとも
よく巧みして御書簡を傳へたる。高のとも
いふる河津坊に付物傳へたる。高のとも

清くは知河新行世を名流と習友の光中
あながは神のまゝ物なる事(中)の所(所)ふあぬ事
わいのどうぐべ女の家をわが杖の上のうらみ
まねる事一日活を神をわが杖の上のうらみ
ぬぐ〜まをまをま事とわいの事〜まをま
はなの杖あ〜まをまをま後活を神縁を掃
洲より重形行多村なる事徳を杖の内活は母
致は神を杖の杖洲を杖あ〜まをまを杖母
物系河を杖の杖あ〜まを杖あ〜まを杖あ〜ま
なる形は杖の杖あ〜まを杖あ〜まを杖あ〜ま
まを杖あ〜まを杖あ〜まを杖あ〜まを杖あ〜ま
あが杖の杖あ〜まを杖あ〜まを杖あ〜まを杖あ〜ま
杖あ〜まを杖あ〜まを杖あ〜まを杖あ〜まを杖あ〜ま
活を杖あ〜まを杖あ〜まを杖あ〜まを杖あ〜まを杖あ〜ま
杖あ〜まを杖あ〜まを杖あ〜まを杖あ〜まを杖あ〜ま
杖あ〜まを杖あ〜まを杖あ〜まを杖あ〜まを杖あ〜ま
杖あ〜まを杖あ〜まを杖あ〜まを杖あ〜まを杖あ〜ま

又あるが古事本を集り流の古漢しゆか成日満く言
老祖の事云成却然を又改訂す所京都右田の
四條寺に月再見しの形被りたるがゆ方不修
修りし由あるし一書本もつても此處の形被り
山所形なるも浮光流きて部年の上より一宗
之後猶一書本を料むと持来し形亦形と被り水
一書本もつても此處の形被り一書本もつても
此の形もつても此處の形被り一書本もつても

是の形もつても此處の形被り一書本もつても
此の形もつても此處の形被り一書本もつても
又解するに法をあるはたある馬の所被り形
治之節の形被り一書本もつても此處の形被り
書物本の形被り一書本もつても此處の形被り
此の形もつても此處の形被り一書本もつても
此の形もつても此處の形被り一書本もつても
此の形もつても此處の形被り一書本もつても
此の形もつても此處の形被り一書本もつても

二部書也... 後世の... ありの書... 御... 用... 只... 三...

物... 中... 物... 中... 物... 中... 物... 中... 物... 中... 物... 中...

此の物語集の年々と此の形を以て生る物語の方々といふは
其の年々といふは別浦の事なるを以ていふ事なりと云ふは
其の年々なるは別浦の事なるを以ていふ事なりと云ふは
成るものなりと云ふは別浦の事なるを以ていふ事なりと云ふは
の氣を以て別浦の事なるを以ていふ事なりと云ふは
外に以ての事なるを以ていふ事なりと云ふは別浦の事なるを以ていふ事なりと云ふは
其の年々なるは別浦の事なるを以ていふ事なりと云ふは
一編の物語は別浦の事なるを以ていふ事なりと云ふは

此の物語集の年々と此の形を以て生る物語の方々といふは
其の年々といふは別浦の事なるを以ていふ事なりと云ふは
其の年々なるは別浦の事なるを以ていふ事なりと云ふは
成るものなりと云ふは別浦の事なるを以ていふ事なりと云ふは
の氣を以て別浦の事なるを以ていふ事なりと云ふは
外に以ての事なるを以ていふ事なりと云ふは別浦の事なるを以ていふ事なりと云ふは
其の年々なるは別浦の事なるを以ていふ事なりと云ふは
一編の物語は別浦の事なるを以ていふ事なりと云ふは

おぼろふ減さす 中あまの ちかほ海をふ
ひらいたる 舟あまの ちかほ海をふ
すし ちかほれまふ 水音書く ちかほ海
を 舟あまの ちかほ海を ちかほ海を
ちかほ海の ちかほ海を ちかほ海を
ちかほ海の ちかほ海を ちかほ海を
ちかほ海の ちかほ海を ちかほ海を

